

第三段階 初期ユダヤ教宣教

E. イエスはサマリアで弟子を作る

4. イエスは真の礼拝について教える

ディリージーザスニュース #046

ヨハネ4.20-26

20 女は言った。「私たちの先祖はこの山で礼拝しましたが、あなた方は皆、礼拝すべき場所はエルサレムだと主張しています。」

21 イエスは彼女に命じて言われた。「婦人よ、わたしの言うことを信じなさい。あなたがたが父を礼拝する時が来ます。その時は、この山でもエルサレムでもない所です。22 あなた方サマリア人は知らないものを礼拝し続けています。しかし、わたしたちは知っているものを礼拝し続けています。救いはユダヤ人から来るからです。」

23、しかしまことの礼拝者たちが、靈と真理をもって父を礼拝する時が来ます。そして、すでに来て います。父が求めておられるのは、そのような礼拝者たちです。24 神は靈ですから、神を礼拝する 者たちも、靈と真理をもって礼拝する必要があります。」

26 女は言った。「私は、メシア（キリストと呼ばれる）が来ることを知っています。彼が来ると、 私たちにすべてを説明してくれるでしょう。」

26 するとイエスは言われた。「あなたと話しているのが、わたしである。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT}、マーク =^M、ルーク =^L、ジョン =^J、使徒行伝 =^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文 字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、イエスの言葉は赤の斜体で表記されています。旧約 聖書からの引用は大文字で表記されています。

コンテキストダイジェスト

位置	サマリアのシカル
タイムライン	西暦8月30日（第7月）
イエスの生涯	ステージ III: 初期ユダヤ教宣教
	E. イエスはサマリアで弟子を作る
タイトル	4. イエスは真の礼拝について教える

第三段階 初期ユダヤ教宣教

コメント：

この箇所でイエスはサマリア人の女性に二つの壮大な宣言をしました。一つ目は真の崇拝について、二つ目はイエスのアイデンティティについてです。この二つの宣言の重要性を過大評価することは難しいでしょう。

真の礼拝の問題は、ユダヤ人とサマリア人の間の敵意の中心でした。礼拝の問題は今日でも人々を分断しています。イエスと女性の間の「真の礼拝」問題の背景は、この箇所を理解する上で重要なので、ここで簡単に要約します。

サマリア人の聖書は、モーセ五書（旧約聖書の最初の5冊）のみで構成されていました。そのため、サマリア人は、旧約聖書全体よりもはるかに啓示の少ない短縮版聖書を手にすることになったのです。したがって、サマリア人の「メシア」は、基本的に「教える預言者」（彼らの呼び名は「タヘブ」）であり、ユダヤ人が期待する「ダビデの子」や「人の子」ではありませんでした。ダビデの契約、詩篇、預言者は、サマリア人の世界観には入りませんでした。そのため、女性は4.25で「メシアが来られると、すべてのことを私たちに説明してください」と言いました。彼女は、イエスを、モーセがデュエットで語った「タヘブ」、つまり教える預言者である可能性のある預言者と見なしました。18.15、18

ユダヤ人とサマリア人は聖書の内容について意見が異なっていただけでなく、この対立により礼拝の問題でも深い分裂が生じました。旧約聖書の34巻（ヨシニア記からマラキ書まで）がサマリア人によって削除されたとき、彼らは神の真理の大部分を失いました。サマリア人はこの啓示をまったく認めませんでした。そこで彼らは、ヤコブの井戸から2マイル足らずのゲラジム山に代わりの神殿と礼拝の場を建設しました。

神殿をめぐる何世紀にもわたる争いの後、イエスの100年以上前にユダヤの王がゲラジム神殿を破壊しました。イエスとサマリア人の女性が話している間、神殿は廃墟となっていました。彼女は礼拝の正しい場所について尋ねたとき、おそらく倒れた石を指していたのでしょう。

これは単なる神学や哲学の問題ではありませんでした。それはユダヤ人とサマリア人を分ける決定的な問題であり、神を求める者にとって明確な答えは不可欠でした。「エルサレムで礼拝する必要がある」というユダヤ人の主張は、いったいどれほど「必要」だったのでしょうか。イエスは、礼拝についてすべての人が知っておくべき本当に「必要」なことを宣言しようとしていました。それはまた別の大ヒットで世界を変える啓示です。

の教えの内容は、礼拝の10の基本原則から構成されています。私は、これらの10の原則を考察する補足ノートを用意しました [HYPERLINK "http://www.atjministries.org/wp-content/uploads/2012/02/DJN-Notes-on-JN-4.21-16-True-Worship.pdf"](http://www.atjministries.org/wp-content/uploads/2012/02/DJN-Notes-on-JN-4.21-16-True-Worship.pdf)。この聖句は、新約聖書の中で礼拝に関する最も重要な一節であり、イエスの口から直接語られたものであり、真剣な研究と熱烈な服従に値します。

礼拝は旧約聖書のもとで非常に具体的に規定していました。21-24節でイエスが命じた礼拝方法の転換は、あらゆる意味で急進的です。神殿、犠牲、レビ人の祭司職、旧約聖書で定められたすべての時間と儀式を含む、礼拝の外的な形式をすべて完全に排除しました。キリスト教徒は、礼拝の中心となる日を「土

第三段階 初期ユダヤ教宣教

曜日」(週の最後の日)から「主の日」(日曜日)に移すことになり、十戒に「違反」することになります。(旧約聖書のユダヤ人にとって)これらすべての考えられない変更の権威は、すべてイエス自身とこの聖書本文から直接来ています。

ここでイエスが教えていることは過激な性質を持っていますが、旧約聖書が提唱した真の礼拝の精神と完全に一致しています。外面向的な形式は排除されていますが、イエスの「新しい」種類の礼拝は、古いものすべてを完璧に実現したものです。イエスは律法を成就するために来たのであって、律法を破壊するために来たのではありません。神の子としてのイエスの輝きと知恵は、この箇所で太陽よりも明るく輝いています。

「預言者」であるイエスに、彼女の人生で最も議論を呼ぶ重要な問題について教えを乞うたその女性は、サマリアの女性がすでにどれほどイエスを信頼していたかを示しています。サマリアでは600年以上も預言者が奉仕していました。彼女は、真の崇拝の問題を永遠に解決できる方から決定的な答えを得る機会を捉えました。

それで、このテキストの2番目の主要な宣言、つまりヨハネの福音書におけるイエスの最初の「わたしはある」という言葉に移ります。

の真の礼拝に関する教えの権威と知恵に圧倒されていたことは明らかです。イエスは、神のみが語る権利を持つように、本来神を中心とした話題について語りました。彼女はイエスを預言者として見る以上のものを感じていました。4.25の彼女の言葉は、彼女がイエスを約束された救世主として信じる用意があることを暗示しています。「私たちは、メシア、すなわちキリストと呼ばれる方が来られたとき、その方が来られたときに、すべてのことを私たちに示して下さるであろうことを知っています。」

ヨハネはまたしても、同時に二つの真の意味を持つイエスの言葉を引用しています。まず、「イエスは」私はある」と言い、述語として「救世主」を挿入する必要がある構文で述べています。文脈からわかるのは、それが唯一の選択肢です。イエスはこう言っています。「あなたは私を救世主と呼んだ。私は救世主だ」。これはそれ自体、信じられないほど力強い言葉です。

しかし、この言葉には第二の、さらに大きな意味があります。イエスはここで、第四福音書の根幹となる「私は在る」という声明を述べました。ギリシャ語の「私は在る」というフレーズは、ヘブライ語のヤハウエ（「私は在る」）に相当します。これは旧約聖書における神の究極の名前です。ですから、イエスは「私は在る」と言ったとき、この独特の神の名前とアイデンティティを自分自身に適用したのです。

旧約聖書では、YHWHを使った神の7つの複合名が明らかにされました。ヨハネの福音書では、イエスは「私はある」を使って自分自身の7つの複合名を明らかにしました。イエスは聖書の救世主であると主張しているだけでなく、この2つの言葉を使うことで、旧約聖書のYHWHが人間の肉体をまとめて、完全な神性のマントを自らに着けたのです。

「私はある」「または」ヤハウエであると最初に主張した後、ヨハネの福音書ではイエスが「私はある」と7回発言しています。したがって、ヨハネ4.26は、この福音書、そしてイエスを証言する4つの福音書全体における重要な転換点の1つです。

第三段階 初期ユダヤ教宣教

イエスが、罪深いサマリア人の女性と真の礼拝について語り合う中で、この神聖な名前を自らに使い始めたという事実は、私たちが十分に理解できないほどの恵みに満ちています。

応用：

イエスは、神を喜ばせる真の礼拝の本質について唯一の絶対的な権威です。なぜなら、イエスは神だからです。イエスは、創造された瞬間からすべての天使と他の天の存在から礼拝を受けている神の子として、礼拝生活の中で父と聖霊について語っています。父と聖霊が神であるのと同じように、イエスはヤハウェです。

私たちは真の礼拝者になる必要があります。なぜなら、父なる神は、すべての存在と行いにおいて礼拝者である人々を求めておられるからです。イエスはこの聖句でこう命じました。 「**真の礼拝について私が語っていることを信じなさい。**」

イエスは、私たちの外面向けの崇拝の表現はすべて、私たちの存在と行動のすべてに浸透する心からの崇拝の姿勢から来なければならないと教えています。

1から10のスケールで、あなたが毎日行うすべてのことの中で、神の崇拝者としてのあなたのアイデンティティはどれくらい強いですか。

同じように、毎日行うすべてのことの中で、礼拝の優先順位はどの程度でしょうか。

私たち全員が、この2つの質問に「10」と答えるべきです。しかし、真実は、誰も答えられないということです。私たちは常に礼拝者としての過程にあります。しかし、私たちは心、精神、魂、そして力のすべてを尽くして「10」に向かって成長し、到達すべきです。なぜなら、礼拝は神への愛の最高の表現だからです。

あなたは今日、どのように礼拝者として成長しようとしますか？人生のこの時点で、礼拝のどの分野に最も取り組む必要がありますか？今週、それをどのように実行しますか？今月の残りの間、そしてそれ以後も？